

# 日本語学における野外調査型演習の意義・成果・展望

——甲南大学方言研究会30年間の活動から——

都 染 直 也

## §0 はじめに

甲南大学における筆者のゼミ(演習)活動については、これまでに、都染(2007)、都染(2019)の報告2篇をまとめたことがある。都染(2007)ではグロットグラム作成を目的とする方言調査に際しての細かな「注意点や技法」を、都染(2019)では、大学におけるゼミ活動としての方言臨地面接調査を「どのように(年間計画)」実施してきたのかをまとめた。

本稿は、上記2篇と一部重複する内容や表現があるが、1990～2019年度にわたる30年間のゼミ活動を通して筆者が「何を」行なってきたのか、そこで行なってきた学生教育と、そこから得られた研究成果の全容を書きとどめておくことを目的とする。また、今日の大学教育における日本語学科目としての野外調査型演習の意義について言及する。

## §1 野外調査との出会い

筆者が学部2年生のとき、『月刊言語』(大修館書店)で、「特集 野外調査の言語学」が刊行された(第7巻9号, 1978年9月号)。在籍校には方言に関する授業もなく、記憶に残ることもなかった。ところが、翌年方言学講義のクラス、さらに翌年には方言学演習のクラス(ゼミではない)が開講され、結局、自ら野外調査を行なって卒業論文を作成することにした。

修士課程の「ゼミ」では、野外調査はなく、文献講読型であった。博士課程の「ゼミ」では、修士・学部学生、留学生を交えての合宿型野外調査を経験した。

## §2 甲南大学で野外調査型演習活動を開始

甲南大学でのゼミを計画するにあたって、もっとも参考になったのは、上記『月刊言語』に掲載されていた、徳川宗賢「架空教室「言語地理学演習」第一日」である。その内容を筆者なりに理解して、学生教育に

おいて実行しようと決めたのは、次の2点である。

- I. 学生自身が目標を持ち、達成感を味わえるように、毎年度末に必ず報告書を刊行すること
- II. ゼミ生全員での方言調査において、初対面の人から教えを受けるという経験を積み、卒業後の社会人としての生活に活かせるものにすること

その後、経済産業省から「社会人基礎力」という名称で、次の3点が示された(2006年)。

＜周囲との協調性＞

＜一步踏み出す力＞

＜独創的発想力＞

これらは、すべて、「都染ゼミ(対外的交渉のために、甲南大学方言研究会という名称を使用)」が目指し、実行していたものであり、筆者が計画・実行してきたことに間違いがなかったことを確認できた。3点に相当することは、ゼミ生募集の説明会において、「共同作業であること」「野外調査への参加が必須」「報告書の原稿作成は必須」という具体的項目を示し、学生を募ってきた。表1に履修登録者数の推移を示す。

表1 年度別在籍者数(2016年度入学生まで)

1990	8	1996	26	2002	49	2008	39	2014	28
1991	13	1997	26	2003	43	2009	28	2015	31
1992	17	1998	23	2004	38	2010	34	2016	25
1993	21	1999	26	2005	35	2011	40	2017	25
1994	14	2000	25	2006	41	2012	49	2018	11
1995	13	2001	27	2007	37	2013	43	2019	6

・正式履修登録者数(学部学生)

・1990～2001年は3・4年次生, 2002～2017年は2～4年次生, 2018年は3・4年次生, 2019年は4年次生のみ(2001・2017年度に学科教育課程変更)

上記I・IIを目的としたゼミへの参加者は、のべ841人、実数340人であるが、臨地調査には、学部学生以外に、大学院生・研究生や卒業生の参加もあった。

なお、ゼミでの合宿型臨地面接調査実施は、1990年度から2017年度までの28年間と、2019年度である。

### §3 合宿型臨地面接調査の28年間と29・30年目

1990年から2017年まで、28年間の合宿型臨地面接調査は、次のように2期に分けることができる。

- ・地理言語学的調査研究：1990～2001年度(表2)
- ・社会言語学的調査研究：2002～2017年度(表3)

表2 地理言語学的調査研究 年度・地点・調査地域

年度	地点数	調査対象地域(調査当時の地名)等
1990	75	兵庫県多紀郡(西部)・水上郡(東部)
1991	119	兵庫県多紀郡(全域)
1992	108	兵庫県水上郡(全域)
1993	119	兵庫県北播磨地方(西脇市・多可郡)
1994	118	兵庫県加西市
1995	77	兵庫県加東郡
1996	117	兵庫県旧美囊郡(三木市・吉川町等)
1997	77	兵庫県小野市
1998	85	兵庫県三田市
1999	94	兵庫県朝来郡(南部)・神崎郡(北部)
2000	104	兵庫県神崎郡(南部)・旧神崎郡地域
2001	104	兵庫県夢前町・安富町・姫路市林田町
計	1197	対象地域面積 約2900km <sup>2</sup>

表3 社会言語学的調査研究 年度・地点・話者数等

年度	地点数	話者数	調査対象路線区間
2002	23	138	JR山陰本線鳥取-和田山
2003	28	168	JR山陰本線湖山-松江
2004	20	120	JR山陽本線姫路-倉敷
2005	21	126	JR播但線・山陰本線姫路-福知山
2006	27	157	JR山陽本線・赤穂線福山-西相生
2007	22	132	JR山陰本線乃木-石見福光
2008	22	132	JR因美線・智頭急行線津ノ井-苔縄
2009	21	125	JR山陰本線京都-梁瀬
2010	21	126	JR山陽本線広島-備後赤坂
2011	30	180	JR山陽本線・加古川線御着-丹波竹田
2012	34	204	JR姫新線播磨高岡-新見
2013	25	149	JR伯備線岸本-清音
2014	21	126	KTR・JR舞鶴線但馬三江-西舞鶴-淵垣
2015	24	144	JR舞鶴線・小浜線西舞鶴-敦賀
2016	19	114	JR山陰本線黒松-飯浦
2017	20	120	JR福知山線下滝-尼崎
計	378	2261	総延長距離1604.5km

- ・過年度調査資料を合わせて作成した報告書もある
- ・1地点6人として、調査達成率は99.7%である

表1に注記したように、2017年度入学生からは教育課程改編(ゼミを前・後期別科目に分割)となり、夏期休暇後半実施の臨地面接調査の位置づけが失われた。

1990年度に始めた臨地面接調査参加を必須とするゼミは、2016年度入学生を以て終了する予定で、2018年度も岡山県内のJR因美線・津山線沿線調査を計画していた。しかし、西日本豪雨災害のため調査を中止し、28年目の2017年度が臨地面接調査の最終年となった。

29年目の2018年度は、3・4年次生に新課程2年次生3人を加え、1990～1995年度調査で得られた資料のうち、報告書(言語地図集)未収録・未地図化状態での全データを地図化、29冊目の年度報告書を刊行した。

30年目の2019年度も同様に、新課程3年次生の援助を得て、1996～2001年度調査の未地図化資料の地図を作成し、2019年度報告書を甲南大学方言研究会報告30号・終刊号として刊行した。一方、2016年度入学生は臨地面接調査の経験が2017年度のみであったため、ゼミ選択時の約束を果たすべく、2019年度に6人全員での方言臨地面接調査を計画・実施し、各自が卒業論文をまとめ、報告書『丹波篠山市大芋地区のことば』(甲南大学方言研究会叢書18)を2020年3月に刊行した。

### §4 言語地図・グロットグラムについて

35頁から、各年度の報告書(甲南大学方言研究会報告1～28)のうち地域特性がよく表われているものを紹介する(報告書29・30は地域が重複するため省略)。これらの言語地図・グロットグラム(地理年代言語図)は、社会人基礎力<周囲との協調性>を以て臨んだ合宿型臨地面接調査で、<一歩踏み出す力>によって初対面の話者に御教示を請い、調査後はデータの分析・記号付与作業・作図作業で<独創的発想力>の発揮を实践したものである。なお、この密度でのアクセント分布地図は貴重なため、学生たちが録音した話者の発音資料を筆者が聴取・整理、地図化したものである。

言語地図は、各地点とも調査時点で70歳前後の生え抜き男性1人を原則とし、年齢・性別に幅を持たせて話者を選定、御協力いただいた。地点は、国土地理院の1/50,000地形図に記された地名以下の小地域での「しらみつぶし調査(全集落調査)」を目指した。

グロットグラムは、年度の路線区間内全駅を地点とし、各地点3世代(70代・40代・10代)の生え抜き男女計6人を話者として選定、御協力いただいた(表3での未調査は、山陰本線：丹波口・円町・花園・太秦・保津峡、福知山線：北伊丹・猪名寺・塚口・大阪の9駅)。

## §5 各年度刊行の言語地図・ グロットグラム集詳細

35～43頁の言語地図・グロットグラム(以降、一部でGGと略記)にある西暦は報告書刊行年で、「調査年度+1」となる。また、刊行年順ではなく調査域の位置関係で配列する。なお、地図は調査対象地域の形に合わせて縦型・横型が決まるが、GGは調査地点両端の地理的位置関係が南北なら縦型、東西なら横型としている。縦型か横型かは、都染(2017)で述べたように、江端(2001)で示された、GGに対する課題への回答の形式として、2002年度調査から計画していたものである。

### ◎言語地図(甲南大学方言研究会報告1～12, 29・30)

1. 1990年：『兵庫県多紀郡水上郡接境地域言語地図』(1991年3月, 2013年3月2版)A4判横, 地図84枚93p.
2. 1991年：『兵庫県多紀郡言語地図』(1992年3月, 2012年3月2版)A4判横, 地図93枚102p.
3. 1992年：『兵庫県氷上郡言語地図』(1993年3月, 2012年3月2版)A4判縦, 地図98枚107p.
4. 1993年：『兵庫県北播磨地方(西脇市・多可郡)言語地図』(1994年3月)A4判縦, 地図97枚107p.
5. 1994年：『兵庫県加西市言語地図』(1999年3月)A4判縦, 地図80枚88p.(震災のため刊行遅延)
6. 1995年：『兵庫県加東郡言語地図』(1996年3月)A4判横, 地図76枚85p.
7. 1996年：『兵庫県旧美囊郡言語地図(三木市・美囊郡吉川町・神戸市北区淡河町)』(1997年3月, 2013年3月2版)A4判横, 地図79枚90p.
8. 1997年：『兵庫県小野市新言語地図』(1998年3月)A4判横, 地図85枚95p.
9. 1998年：『兵庫県三田市言語地図』(1999年3月)A4判横, 地図88枚98p.
10. 1999年：『兵庫県朝来郡神崎郡接境地域言語地図』(2000年3月)A4判縦, 地図91枚101p.
11. 2000年：『兵庫県神崎郡南部言語地図』(2001年3月, 2010年3月2版)A4判縦, 地図89枚99p.
12. 2001年：『兵庫県飾磨郡宍粟郡姫路市接境地域言語地図』(2002年3月, 2010年3月2版)A4判縦, 地図93枚103p.
- ・過去の調査資料を地図化した報告書(掲載なし)
29. 2018年：『兵庫県各地域言語地図拾遺集Ⅰ』(2019年3月)A4縦・横, 地図174枚226p.(1990～1995年度)
30. 2019年：『兵庫県各地域言語地図拾遺集Ⅱ』(2019年10月)A4縦・横, 地図204枚255p.(1996～2001年度)

### ◎グロットグラム集(甲南大学方言研究会報告13～28)

13. 2002年：『J R 山陰本線鳥取－和田山間グロットグラム集』(2003年3月)A4判縦, GG148枚169p.
14. 2003年：『J R 山陰本線松江－鳥取間グロットグラム集』(2004年3月)A4判縦, GG165枚185p.
15. 2004年：『J R 山陽本線姫路－倉敷間グロットグラム集』(2005年3月)A4判縦, GG155枚171p.
16. 2005年：『J R 播但線・山陰本線姫路－福知山間グロットグラム集』(2006年3月)A4判縦, GG158枚172p.
17. 2006年：『J R 山陽本線・赤穂線姫路－福山間グロットグラム集』(2007年3月)A4判縦, GG156枚172p.
18. 2007年：『J R 山陰本線石見福光－松江－伯耆大山間グロットグラム集』(2008年3月)A4判縦, GG156枚172p.
19. 2008年：『J R 山陽本線・智頭急行線・J R 因美線姫路－鳥取間グロットグラム集』(2009年3月)A4判縦, GG156枚171p.
20. 2009年：『J R 山陰本線京都－和田山間グロットグラム集』(2010年3月)A4判縦, GG156枚172p.
21. 2010年：『J R 山陽本線広島－岡山間グロットグラム集』(2011年3月)A4判縦, GG158枚174p.
22. 2011年：『J R 山陽本線・加古川線・福知山線姫路－福知山間グロットグラム集』(2012年3月, 同2版)A4判縦, GG159枚175p.
23. 2012年：『J R 姫新線 姫路－新見間グロットグラム集』(2013年3月)A4判縦, GG160枚176p.
24. 2013年：『J R 山陰本線・伯備線・山陽本線 松江－岡山間グロットグラム集』(2014年3月)A4判縦, GG160枚176p.
25. 2014年：『K T R 宮津線, J R 舞鶴線・山陰本線豊岡－西舞鶴－福知山間グロットグラム集』(2015年3月)A4縦, GG161枚176p.
26. 2015年：『J R 小浜線・舞鶴線敦賀－綾部間グロットグラム集』(2016年3月)A4縦, GG161枚177p.
27. 2016年：『J R 山陰本線出雲市－飯浦間グロットグラム集』(2017年3月)A4縦, GG160枚177p.
28. 2017年：『J R 福知山線福知山－尼崎間グロットグラム集』(2018年3月)A4縦, GG161枚178p.

### ○甲南大学方言研究会叢書

ゼミ生全員による調査報告書以外に、卒業研究の資料として個人やグループで作成されたものや、ゼミ報告書の復刻・合冊した叢書には次のものがある。

- ①『兵庫県小野市言語地図』(1994年3月)B5判横, 地

図50枚56p.

- ②『兵庫県加古川市言語地図』(1998年1月)B5判縦、地図99枚106p.
- ③『J R 福知山線沿線グロットグラム』(1997年3月)B5判横、GG143枚78p.
- ④『J R 神戸線沿線(神戸－姫路間)グロットグラム』(1998年3月)B5判横、GG138枚75p.
- ⑤『J R 神戸線沿線(大阪－姫路間)アクセントグロットグラム』(1998年3月)GG313枚55p.
- ⑥『J R 加古川線沿線グロットグラム加古川(兵庫県加古川市)－谷川(兵庫県氷上郡)間』(1998年3月)B5判横、GG132枚72p.
- ⑦『兵庫県姫路市言語地図』(2000年3月)B5判縦、地図131枚137pp.
- ⑧『兵庫県下グロットグラム集 I JR 沿線篇(1)』(2002年2月)B5判横、GG810枚340p.
- ⑨『兵庫県川西市・川辺郡猪名川町言語地図』(2002年3月)B5判縦、地図104枚110p.
- ⑩『兵庫県高砂市言語地図』(2008年1月)B5判縦、地図97枚102p.
- ⑪『静岡県庵原郡(富士川町・由比町・蒲原町)言語地図』(2008年1月)B5判縦、地図139枚143p.
- ⑫『兵庫県加古郡稲美町言語地図』(2009年2月)B5判縦、地図286枚291p.
- ⑬『兵庫県姫路市新市域言語地図集』(2010年3月)A4判縦、地図312枚(2000・2001年度報2, 叢書⑦合冊)
- ⑭『兵庫県姫路市家島町のことば(1)－語彙・文法・アクセントの地域差・年代差－』(2010年3月)A4判縦、338頁
- ⑮『兵庫県姫路市家島町のことば(2)－暮らしの語彙の地域差・年代差－』(2011年3月)A4判縦、190頁
- ⑯『兵庫県丹波地方域言語地図集』(2012年3月)A4判縦、地図312枚(1991・1002年度報告の合冊復刻)
- ⑰『兵庫県加東市言語地図』(2019年3月)B5判横、地図82枚107p.
- ⑱『丹波篠山市 大芋地区のことば』(2020年3月)A4判縦、地図79枚256p.
- ⑲『近鉄大阪線・名古屋線赤目口－千里間グロットグラム集』(2020年4月)A4判縦、GG106枚116p.
- ⑳『姫路市家島町坊勢方言談話資料－1940年代生まれ女性の自然談話－』(2020年5月)A4判縦 161p.

以上が、真田(2007)で紹介され、その後も継続してきた、甲南大学方言研究会による調査・研究成果の全貌である。

## §6 演習担当教員に残された仕事

本稿の冒頭で「大学での日本語学科目としての野外調査型演習の意義について言及する」と記した。

徳川(1978)が掲載された背景には、全国各地の大学等でゼミや学生有志による言語地図集刊行が相次いだということがある(大西(2007))。その大きな流れが細くなるころ、甲南大学方言研究会の活動が始まった。当時は、伝統的方言の衰退が顕著になり、保存が急がれていた時期で、筆者も兵庫県の調査に参加した(兵庫県教育委員会(1989))。そういう意味では、上記活動によって、伝統的方言(言語地図・GG)や新しい方言(GGの若い世代)の記録を残すことができたと言える。

また、井上(2016)で甲南大学方言研究会の調査資料の有用性が指摘されたように、資料はすべて調査担当学生直筆のものをそのままの形で保存している。同時に指摘された、誰がどのような形で公開するのか、言われんとしていることは、理解しているつもりである。

もう一つの大切な側面、学生への教育的効果については、明確な指標がない。しかし、2回もしくは3回の方言調査を経験して、より自主的に行動できるようになった者、自分にはできそうにないと思っていたこと(初めての土地で初対面話者への調査)ができて自信がついたと言う者、各報告書末尾にある一人ひとりの自筆「あとがき」からその効果が推測できる。

次に、「教員に残された仕事」とは、都染(2011)に記したように、30年間積み重ねてきた資料の総合化と、言語地図やGGの解説をまとめることである。

言語地図・グロットグラムの同じ項目を年ごとに連続してまとめる際の方法として、藤原(1974)(1976)のように、あらかじめ記号に意味を与えておく(どの系統の語形であるのか解釈を加えたうえで適切な記号を選ぶ)こともできた。しかし、既述のように、研究成果としての方言資料作成と同時に、またそれ以上に、学生への教育として、一つひとつのことばを大切に扱い、一つひとつの記号を考えるとという経験を重視した。したがって、敢えて、過去の同項目資料の記号を踏襲させず、自分なりの解釈をし、工夫を加え、担当項目の記号をゼロから考えることを求めた。今、新たな資料が増えることがなくなった時点で、初めてすべての資料を見通し、全体としての記号体系を考えることができるようになった。その試みの一つが、図31「広域グロットグラム」であり、都染(2017)のデータに、2017年度の調査資料を追加した、いわば最終形である。



このグロットグラムは、前述の藤原(1974)(1976)のような地域性に基づく記号体系ではなく、この図における語形(音形)に基づいて記号を割当てている。この点についても、井上(2016)からの引用で言及したように、調査時の手書きデータがそのまま残っており、改めてすべてのデータをゼロからまとめ直し、体系的な記号を与えることも可能である(実現の可否は別として)。

筆者の「広域グロットグラム」は、ワープロソフト『一太郎』を用いてA2判横置段組で設計している。都染(2017)ではA5判見開きでほぼ同内容の「広域グロットグラム」を掲載したが、やや不鮮明なものになっている。図31は本誌の判型に合わせて縮小したもので、A4判見開きでまとめられる見通しが立った。

一方、言語地図の場合、18年間の調査域の言語地図を総合するためには、まず、すべての調査対象地域を含む白地図を作成することが必要になってくる。そこから先の作業については、すべての調査地点の位置情報が国立国語研究所『日本言語地図』地点番号システムでまとめてあり、そのシステムに基づいて複数の言語地図を統合する試みも公にされていることから、これらの方法を用いてコンピュータ処理すれば、「理論的に」、また、「コンピュータで扱えるデータ」として、広域グロットグラムに相当する言語地図の作成は可能である。なお、この総合的言語地図は兵庫県面積の約35%という広大な地域を含むものとなり、国立国語研究所『日本言語地図』・『方言文法全国地図』、藤原(1974)といった、大きな判型の言語地図は存在するが、調査地域内での調査地点の密度はそれらを遙かにしのぐものである。出来上がりの現物がどのような状態(判型・大きさ)になるのか、また、それをどのような形で公にできるのか、技術の進歩を学び、探りつつ、さらに模索してゆきたいと考えている。

以上のように、貴重な時間を割いて調査研究に協力してくださった話者の方々の御好意を無駄にしないため、また、さまざまな思いを抱きながら方言調査という未知の領域に踏み込み苦勞して資料をまとめた学生たちの努力に報いるためにも、指導してきた教員として、「資料をまとめ、公にする」仕事が残されている。

## §7 まとめ

徳川(1978)の再録に際し、徳川(1994)では、「あとがき」として次のように追記された。

こうした楽しい授業も次第にやりにくくなってしまったように思う。山間の村々が消滅しつつある

ことがひとつ、老人といっても昭和生まれ、悪くすると著者(引用者注：1930年生まれ)よりも若い人が現れてきて拍子抜けするようになったことがひとつ、土地の人々が伝統的なことばに関心を示さなくなってしまったことがひとつであろうか。

結局、新しい時代には新しい調査が企画されるべきである、ということになる。

その5年後、徳川宗賢先生逝去(1999年6月6日、恩師のため敬称使用)の直前に、筆者がいただいた最後の葉書には、お送りしたゼミ報告書言語地図集へのお礼と、次のような、最期の方言地理学観が記されていた。

ボクが千葉県をフィールドとしてやっていたころ(引用者注：学習院大学での1970年代中ごろ～80年代初頭)とくらべて方言状況も違うし、土地の環境も違う、また学生さんたちの気質も多少とも変化したのではないのでしょうか。そうした中での地図作成、昔とどういう点で違う結果が地図上にあらわれるかを考えてみるのも面白いことかと思いました。(引用者注：1999年5月23日消印)

1999年といえば、携帯電話を所有する者が増え、インターネットという存在も知られ始めたころである。わずか20年余り後の今日、幼い子どもがスマホを使いこなし、社会生活のあらゆる場面で、ケータイやスマホを持たない状態が「通常ではない」とされるようになった。地理言語学で「地を這うような伝播」に対して「空からばら撒かれるような伝播」と表現される現象があるが、今では、「瞬時に地球を駆け巡る伝播」が存在する。このように情報伝達の手段・速度は大きな変貌を遂げた。その一方で、近い将来消滅する集落(限界集落)が3000を越えるという情報がある(『朝日新聞』2020年8月27日朝刊(大阪)1面、10年以内に無居住化の可能性のあるのは3197集落)。

本稿では、甲南大学文学部国文学科から日本語日本文学科の現在に至る30年間にわたる「日本語学における野外調査型演習科目の成果」をまとめ、それらの蓄積に対する現状と、今後の展望について述べてきた。しかし、上記のような、日本や世界の状況を鑑みるに、学生たちの個性と「社会人基礎力」伸張につながる実践的方法としての「野外調査型演習科目」はすでにその役割を終えようとしている感がある。加えて、新型感染症の発生・拡大に伴い、「人と人とが接する」という日常生活の回復が見えない状況になっている。

冒頭で言及したように、本稿と先行2篇は「方言研究の記録」であり、また、甲南大学における野外調査型演習という専門教育科目を通した「人物教育の実践

記録」でもある。ちなみに、甲南大学の教育は、『KONAN U.VISION2020』にあるように「教養と専門のバランスを大切にしながら人物重視の教育を行い、良質な社会常識・倫理観・品格を備え、自ら率先して社会に貢献できる専門性を持った人材の養成」とあり、これに先行して同じ方向性を目指してきたと言える。

#### 関連文献

- 甲南大学学長室(2016)『KONAN U.VISION2020 甲南新世紀ビジョン』甲南大学
- 都染直也(2007)「グロットグラム作成のための方言調査法—甲南大学での実践例をもとに—」『甲南大学紀要文学編』148
- 都染直也(2011)「近畿～中国での方言動態をとらえる」『日本語学』31巻14号(2011年11月号) 明治書院
- 都染直也(2017)「広域グロットグラムの試み—近畿・北陸西部～中国中・東部の調査資料をもとに—」『方言の研究3』日本方言研究会 ひつじ書房
- 都染直也(2019)「方言学のゼミナール—甲南大学方言研究会の調査・研究実践報告—」『日本語学』38巻8号(2019年8月号) 明治書院

#### 参考文献

- 井上史雄(2016)「データの視覚化(4)—Excel 散布図のグラフ・地図への応用—」『計量国語学』30巻4号
- 江端義夫(2001)「日本の社会地理言語学のために」『山形方言』33 山形県方言研究会
- 大西拓一郎(2007)「日本における言語地図の作成」『世界の言語地理学』国立国語研究所
- 真田信治(2007)「日本で編み出された“グロットグラム”」『世界の言語地理学』国立国語研究所
- 徳川宗賢(1978)「架空教室「言語地理学演習」第一日」『月刊 言語』第7巻9号(1978年9月号)大修館書店
- 『日本語研究と教育の道』(1994, 明治書院)に再録
- 徳川宗賢(1994)『日本語研究と教育の道』明治書院
- 兵庫県教育委員会(1989)『兵庫県の方言(兵庫県方言収集緊急調査報告書 兵庫県民俗調査報告 12)』兵庫県教育委員会
- 藤原与一編(1974)『瀬戸内海言語図巻 上・下』東京大学出版会
- 藤原与一(1976)『瀬戸内海域方言の方言地理学的研究』東京大学出版会

謝辞：甲南大学方言研究会の活動は、2020年度神戸市文化活動功労賞を受賞した。研究会関係者(ゼミ卒業生)各位への祝意とともに、神戸市関係者各位に感謝申し上げます。

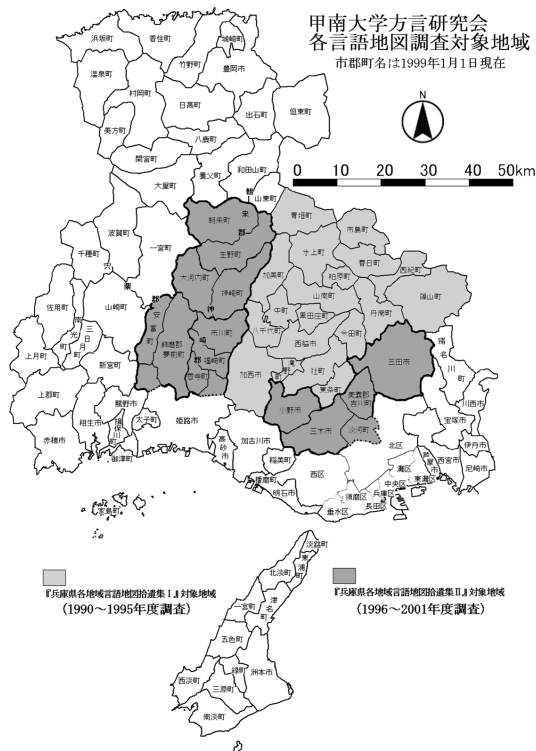


図1 言語地図調査対象地域

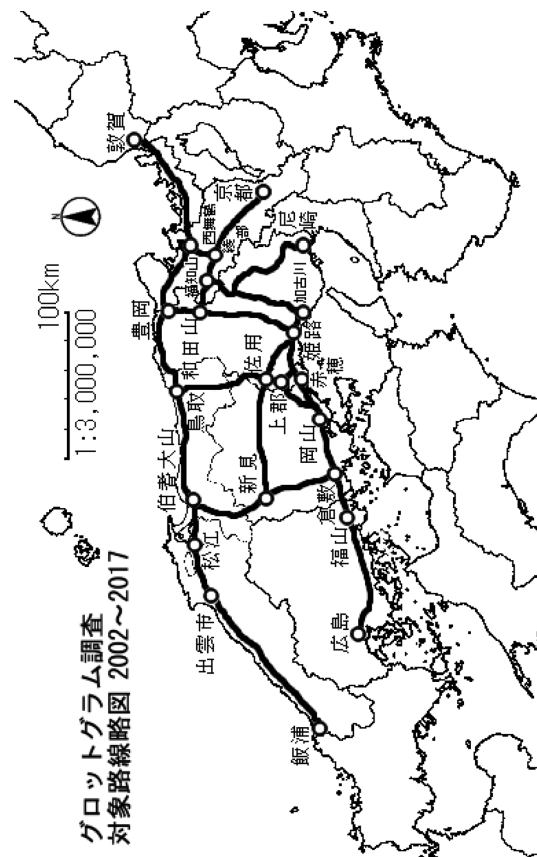


図2 グロットグラム調査対象路線図

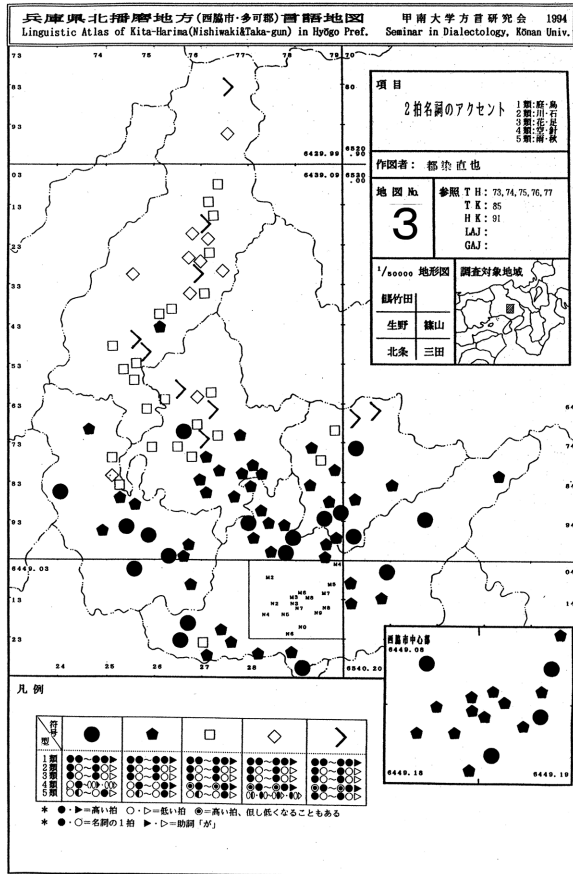


図3 1993年度 兵庫県北播磨地方言語地図

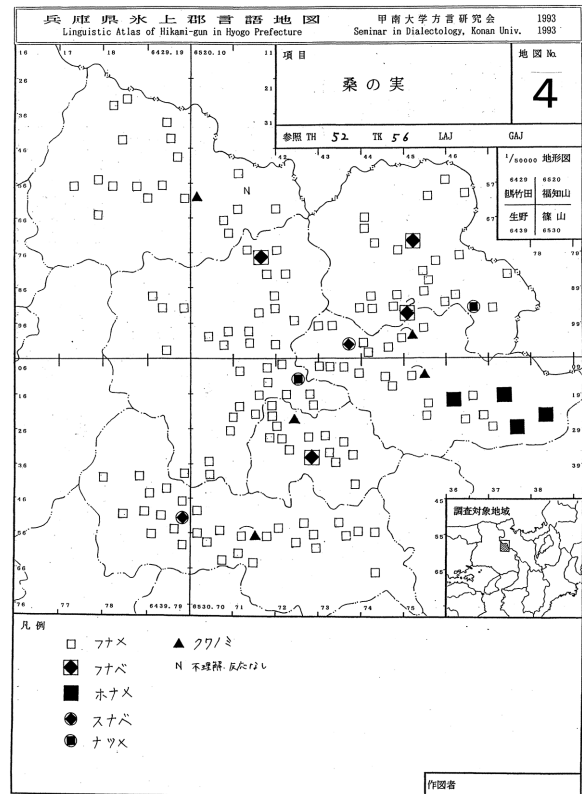


図4 1992年度 兵庫県氷上郡言語地図

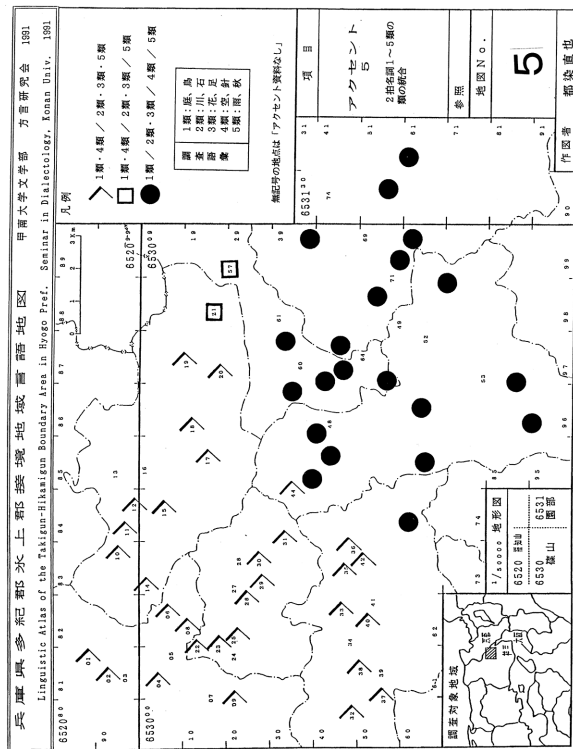


図5 1990年度 兵庫県多紀郡氷上郡接境地域言語地図

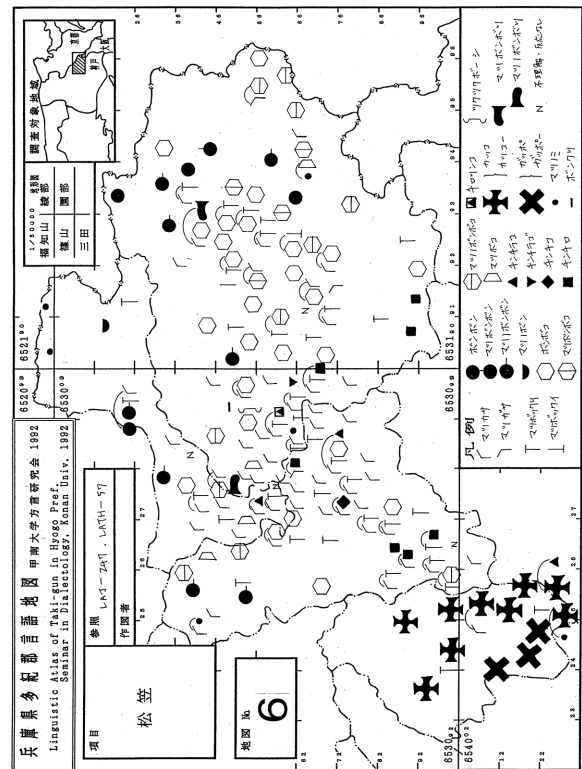


図6 1991年度 兵庫県多紀郡言語地図





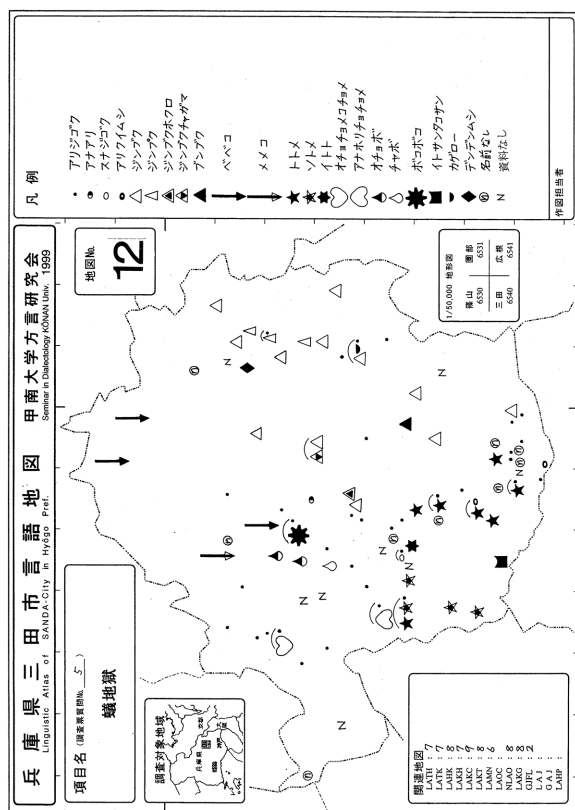


図12 1998年度 兵庫県三田市言語地図

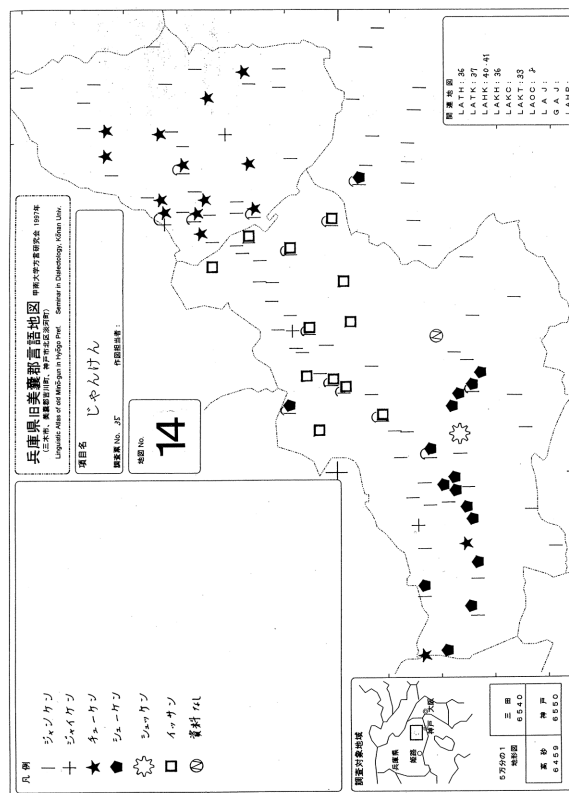


図14 2006年度 兵庫県旧美嚢郡言語地図

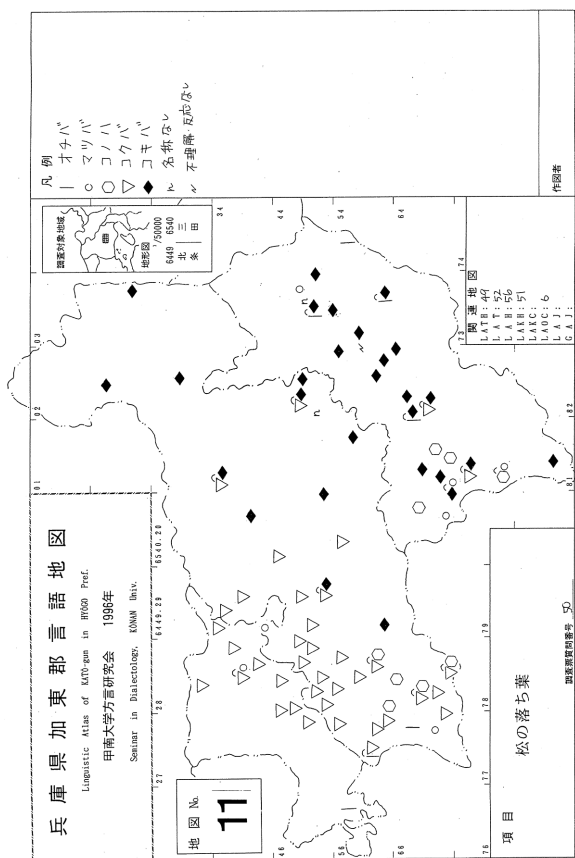


図11 1995年度 兵庫県加東郡言語地図

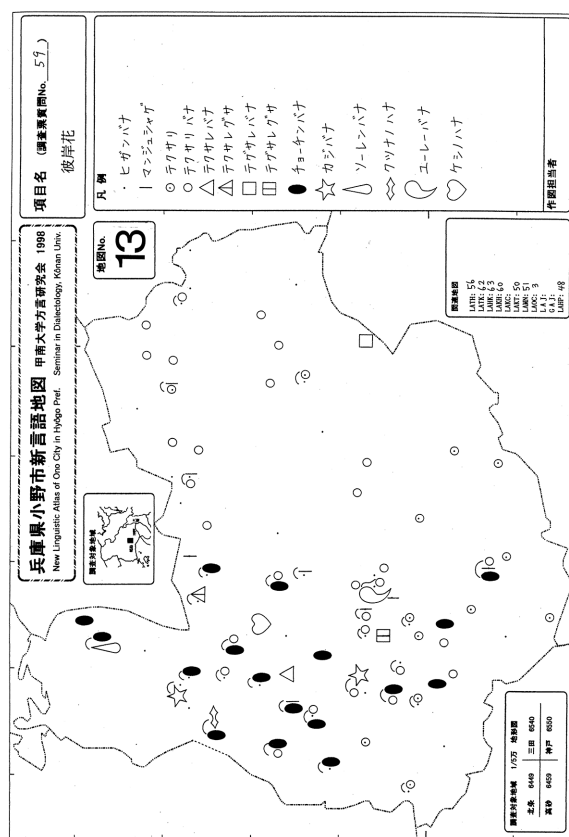
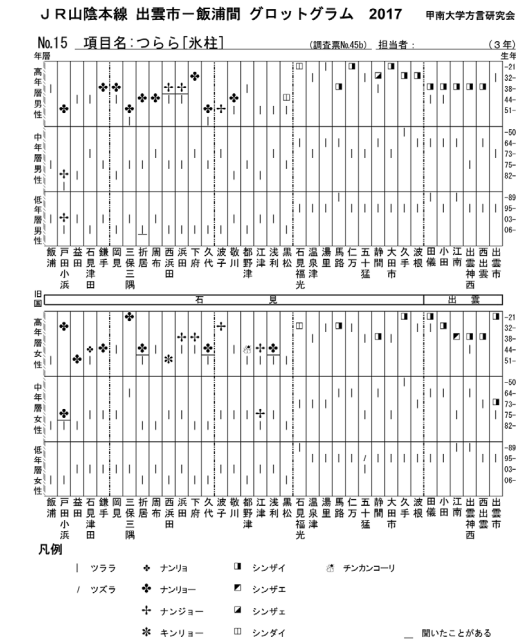


図13 1997年度 兵庫県小野市新言語地図



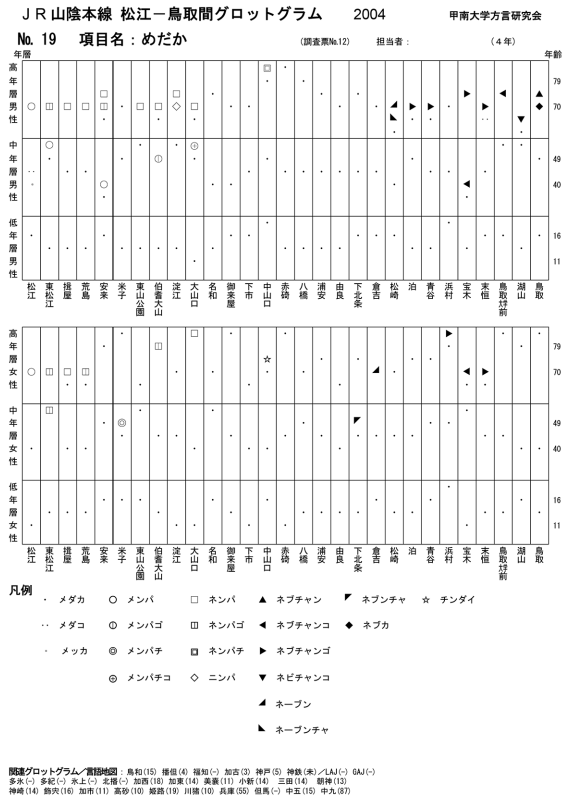


図19 2003年度 松江－鳥取間グロットグラム

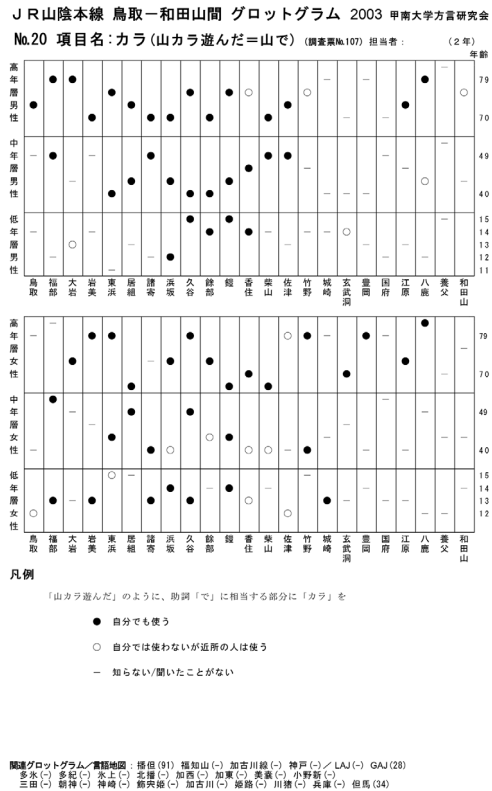


図20 2002年度 鳥取一和田山間グロットグラム

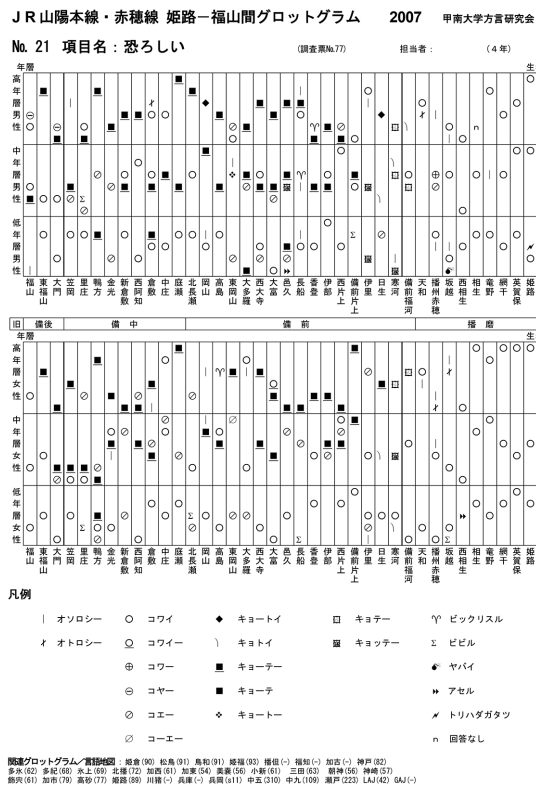


図21 2006年度 姫路一福山間グロットグラム

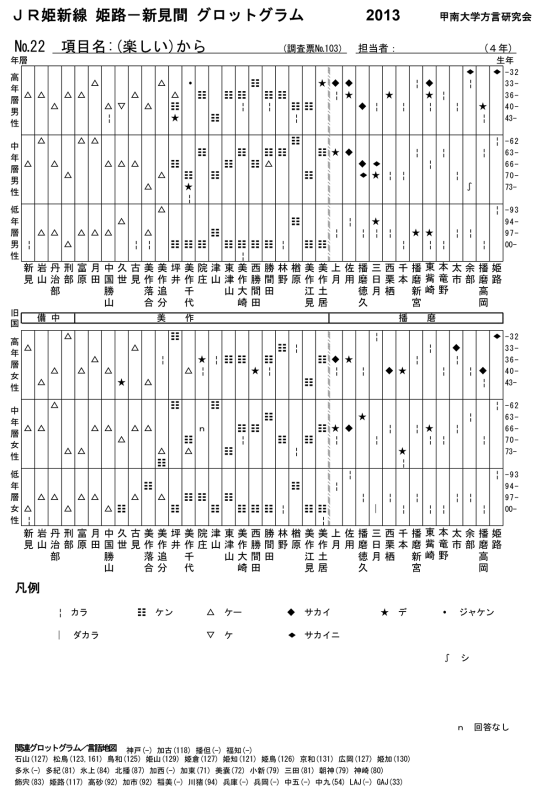
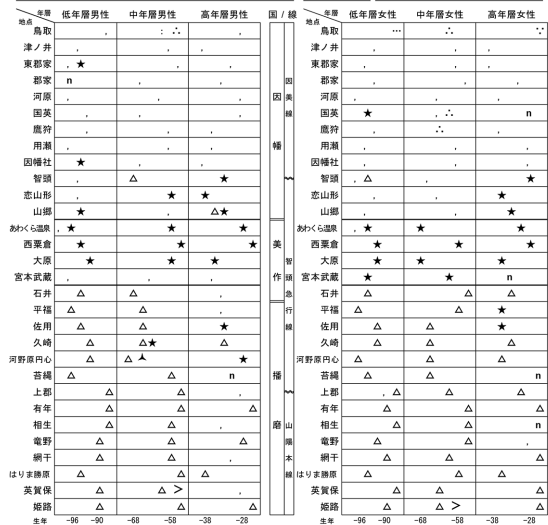


図22 2012年度 姫路一新見間グロットグラム

J R山陽本線・智頭急行線・JR因美線 姫路-鳥取間グロットグラム 2009 甲南大学方言研究会  
No. 23 項目名: (太陽)だ (調査票No.102) 担当者: (4年)



凡例

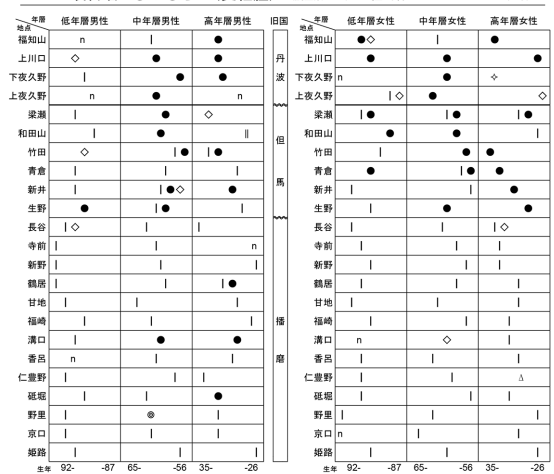
- ・ ダ
- ☆ ジャ
- △ ヤ
- ◇ ダヂ
- △ ヤワ
- ◇ ダヂー
- △ ヤヂ
- ◇ ダケー
- ◇ ダヨ

n 回答(断定のダ・ジャ・ヤ部分)なし

関連グロットグラム/言語地図: 石山(128) 松島(126) 鳥和(123) 姫山(120) 姫倉(125) 姫船(133) 神戸(28) 加吉(42) 福知(83) 福知(4)  
多木(24) 多紀(25) 永上(26) 北播(24) 加西(26) 加東(22) 美濃(18) 小新(23) 三田(23) 朝神(22) 神崎(23)  
熊次(25) 姫路(27) 高砂(27) 加市(27) 川播(20) 兵庫(16) 兵庫(15) 中五(24) 中九(24) LAJ(112) 6AJ(145)

図23 2008年度 姫路-鳥取間グロットグラム

J R播但線・山陰本線(姫路-福知山間)グロットグラム 2006 甲南大学方言研究会  
No. 24 項目名: ものもらい(麦粒腫) (調査票No.20) 担当者: (3年)



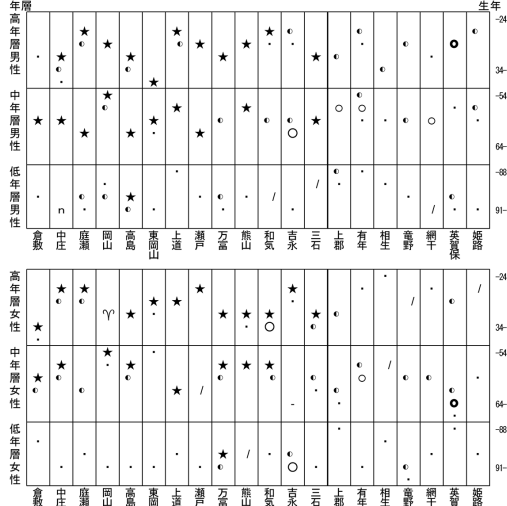
凡例

- ◇ モノモイ
- ◇ モライ
- ◇ メバチ
- ◇ メイボ
- ◇ n 回答なし

関連グロットグラム/言語地図: 松島(22) 鳥和(25) 播但(28) 姫倉(22) 神戸(28) 加吉(42) 福知(45)  
多木(24) 多紀(25) 永上(26) 北播(24) 加西(26) 加東(22) 美濃(18) 小新(23) 三田(23) 朝神(22) 神崎(23)  
熊次(25) 姫路(27) 高砂(27) 加市(27) 川播(20) 兵庫(16) 兵庫(15) 中五(24) 中九(24) LAJ(112) 6AJ(145)

図24 2005年度 姫路-福知山間グロットグラム

J R山陽本線 姫路-倉敷間 グロットグラム 2005 甲南大学方言研究会  
No.25 項目名: (米櫃の米が) 無くなった (調査票No.70) 担当者: (3年)



凡例

- ・ ナクナツタ
- ☆ ミテタ
- ナイナツタ
- / その他の表現
- ◇ ノーナツタ
- ◇ ヒタ
- ◇ ネーナツタ
- n 回答なし
- ◇ ナイオーナツタ

図25 2004年度 姫路-倉敷間グロットグラム

J R山陽本線・加古川線・福知山線 姫路-福知山間 グロットグラム 2012 甲南大学方言研究会  
No. 26 項目名: (非日常品の) 買い物先 (調査票No.126) 担当者: (修2)



凡例

- ◇ 豊岡
- ◇ 福知山
- ◇ n 回答なし
- ◇ 永上
- ◇ 福山
- ◇ 京都
- ◇ 加西
- ◇ 加東
- ◇ 社
- ◇ 三田
- ◇ 姫路
- ◇ 加古川
- ◇ 神戶
- ◇ 西宮
- ◇ 尼崎
- ◇ 大阪

関連グロットグラム/言語地図: 神戸(139) 加吉(131) 播但(131) 福知(131)  
石山(154) 松島(148) 鳥和(146) 姫山(154) 姫倉(153) 姫船(156) 京和(158) 広岡(156)  
多木(78) 多紀(87) 永上(92) 北播(93) 加西(76) 加東(73) 美濃(75) 小新(82) 三田(84) 朝神(85) 神崎(83)  
熊次(91) 姫路(126) 高砂(96) 加市(91) 福美(91) 川播(98) 兵庫(16) 兵庫(15) 中五(91) 中九(91) LAJ(112) 6AJ(145)

図26 2010年度 姫路-福知山間グロットグラム





## 近畿・北陸西部～中国中部広域グロットグラム

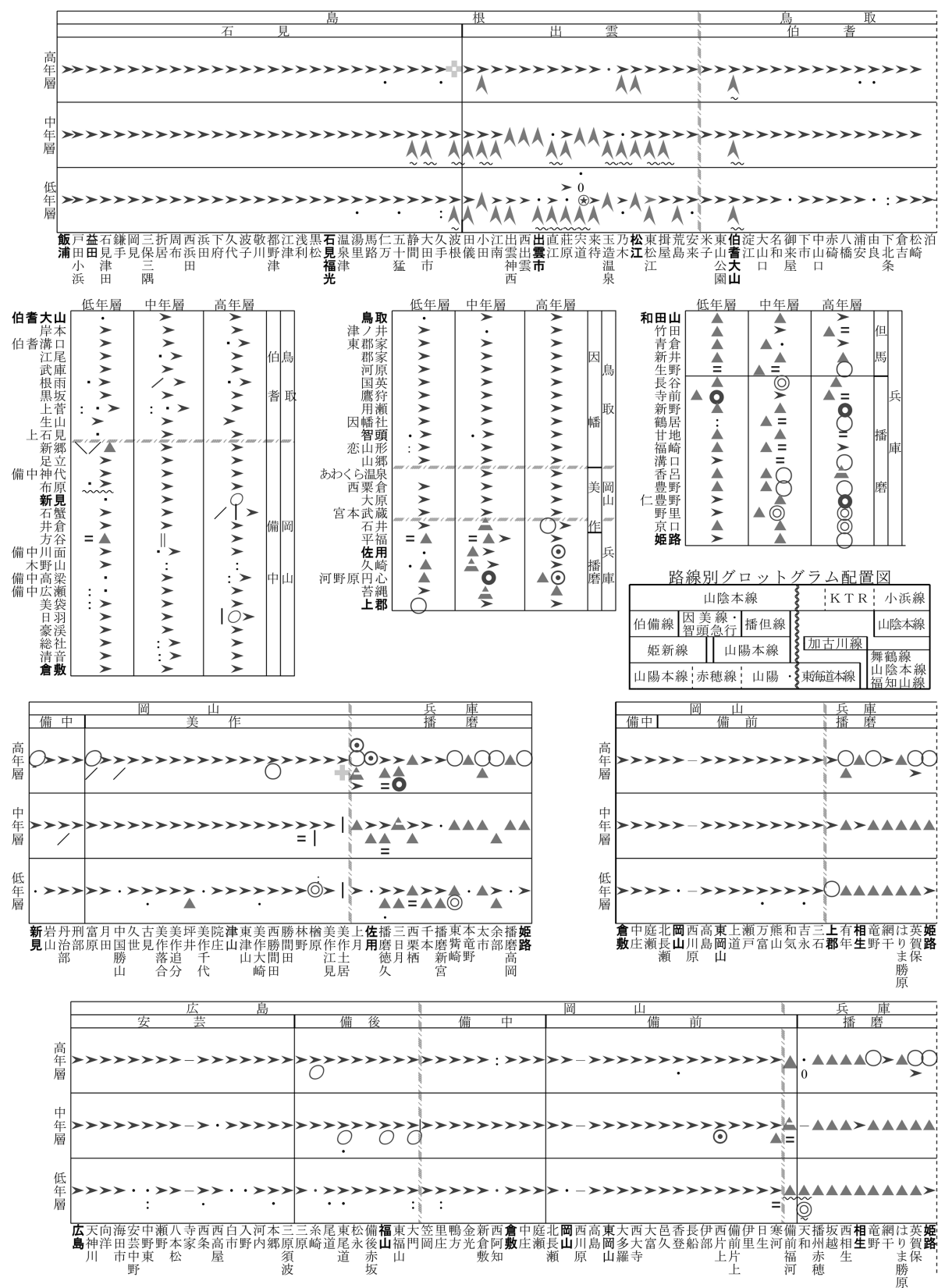


図31 近畿・北陸西部～中国中部広域グロットグラム

作囟：都染直也

